

インターバンクの声（2015年11月5日）

毎月第一水曜日のニューヨーク市場は、週末の米雇用統計の発表を控え、その前哨戦とされるADP雇用統計が注目されるのが常だが、昨夜はこのADPの数字以上にイエレンFRB議長の証言が注目されていた。ADP雇用統計は、民間部門雇用者数がほぼ市場予想の通りの18万2千人で波乱はなし。予め米連邦準備理事会（FRB）の政策に対する言及はないとされていたイエレン議長の講演だったが、そうは言っても質疑応答では皆が聞きたがっているテーマについて突っ込まれる場合が多く、昨夜も結局お決まりのパターンになった。取り敢えず議長は、あっさり12月の利上げの可能性を示してくれた。もっとも、利上げに関する今年これまでの議長発言同様、決定はデータ次第であることもしっかり付け加え、しかも見通しが悪化すればマイナス金利を検討する可能性にまで触れるおまけつきだ。ドル円は121円70銭台までドルが買われたが、さすがにこの内容では122円まで買い上げられない。今月もまた金曜日の雇用統計待ちの第一週目相場になってしまった。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。